

英語でレシピを作成し、英語を使って調理実習 実践的な学びで、英語に強い教員を養成

小中連携も見据えた 英語の授業を考案

10月26日、人間科学部現代子ども学科の小学校・中学校英語教員養成コースの学生たちが英語による調理実習を行いました。「ホームステイ先のホストファミリーに日本食を伝える」をテーマに、各グループに分かれてお好み焼きを調理。事前に学生たちが英語のレシピを準備し、当日はアメリカ人教員のアンドラス・モルナー講師や、加藤純子講師の英語による指導のもと、学生たち自身も英会話を交えながら楽しく実習を行いました。

これは英語の科目を担当する小田節子先生、イギリス人教員のポール・ロジャース講師とモルナー講師、加藤講師の4名によって考案された授業。「お互いに密な連携を取りながら、さまざまな内容で展開しています」と話す小田先生。「2020年には小学校の英語が正式な教科になる予定です。それに向けて、本学の強みを活かしつつ“英語に強い教員”の育成をめざしています」と話します。また、今後さらに強化される小中連携についてもふれ、「小学校での英語だけではなく、中学校も通じて9年間の英語教育を把握できる教員になってほしいと思っています」ともいわれます。



英語による調理実習を行う現代子ども学科の学生たち

プレゼンの能力や 授業の企画力も育成

調理実習の他にも、小田先生をはじめとする先生方が考案した授業はさまざまな内容で展開されています。その中の一つ、ストーリーテリングの授業では、学生が日本の昔話を英語で話せるように練習します。「小学生の英語教育では、英語の音になじませることが大切。英語でも感情を込めて話せるように練習します」と小田先生は話し、「外国人の子どもに通じるように、自分たちで物語を少し作り変えたりと工夫を行う過程で、より深く文法を理解できるようになると思います」といいます。学生たちは教育研修で訪れるアメリカの小学校で、実際にその成果を発表。子どもたちが食い入るように話を聞く様子に感動し、「英語が通じる喜びと達成感」を体感することができます。

また守山区立図書館をはじめ、名古屋市内3ヶ所の図書館で、英語によるお話し会も行っています。本の読み聞かせや歌など、プログラムはすべて学生が考え、リハーサルを何度も行い本番に挑みます。回を重ねるごとに、学生たちの読み聞かせも上達。その様子に小田先生は「人前でも緊張することなくプレゼンできる能力が自然に



金城学院大学
人間科学部 現代子ども学科
小田 節子 教授

「日本人への英語発音教授法の開発」「早期英語教育」が研究テーマ。専門分野は教育学と言語学。日本実践英語音声学会評議員。

身につくと思います。また自分たちでプログラムを考えるという実践は、小学校の授業内容を考えるときに役立ちます」と話します。「今後は英語教育全体もCLIL(内容言語統合型教育)を推進されていきます。それに合わせて、現代子ども学科でも積極的に調理実習やストーリーテリングなどを取り入れて内容と英語を結びつける授業を行っていきます。これにより、自信を持って子どもに英語を教えられる教員になってほしいと考えています」。

現代子ども学科では、2019年度より「現代子ども教育学科」へと学科名を変更します。これまで同様、こうした実践的な授業を行いながら、より一層即戦力として応えられる、また学ぶ楽しさを子どもたちにきちんと伝えることができる小学校教員や中学校教員を養成していきます。

金城学院大学 公式SNSのご紹介

金城学院大学では、大学公式Instagram・Facebookにて、大学の毎日の様子や、教員・学生の活動を紹介しています。ぜひご覧ください、フォローをお願いいたします!



金城学院大学公式 Instagram

kinjogakuin_university



金城学院大学公式 Facebook

kinjo.univ.